

第5回 日本学術会議 土木・建築学委員会 インフラレジリエンス分科会 議事録

日 時：2025年3月22日（土）10：00－11：30

場 所：zoom によるオンライン開催

参加者：多々納、大西、勝見、小林、中村、松田、土屋

議 題

（0） 前回議事録の確認

- 資料0に基づき、誤記の修正をふまえた上で、議事録の内容について承認された。

（1） 学術会議の法人化をめぐる状況の共有

- 資料1に基づき、多々納委員長より、学術会議の法人化をめぐる議論の状況について説明があった。今後、3月28日に会員説明会、4月14日～16日に学術会議総会が予定されており、総会に向けて意見を募集している。また、今国会で法案審議がなされる。

（2） 提言案「壊滅的災害発生が想定されるメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーション」、「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく南海トラフ巨大地震等における地域広域災害への備え(仮題)」について

- 資料2に基づき、多々納委員長より、上記の取りまとめ状況に関して説明があった。
- 提言案「壊滅的災害発生が想定されるメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーション」では、執筆を担当する5章について、補足資料2-3の内容を盛り込むことで了承された。出来上がった原稿をもとに4月の分科会を開催する予定。
- 「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく南海トラフ巨大地震等における地域広域災害への備え(仮題)」は、当初は「提言」として出す予定だったが、助言を受けて「見解」に変更となった。
 - 補足資料2-4にあるように、当分科会関連の内容は、道路インフラの機能差別化と地域建設業の持続可能性の2項目に集約しているが、記述内容や表現に関して、本日（（3）の委員コメントを参照）あるいは4月の分科会でも意見をお願いしたい。
 - 参考情報：3月28日に国土強靱化に関する次の中期計画がまとまる。予算規模は15兆円以上で、そこには能登の対応も含まれる。6月中に閣議決定される予定。

(3) 今期の活動の取りまとめ方針と今後の予定

- 今期の活動の取りまとめ方針
 - インフラレジリエンスに関して国内外の研究動向を幅広くレビューし、「報告」として取りまとめる。
 - 前期に取りまとめた見解のフォローアップ活動としても位置づける。
 - 国土強靱化推進会議との連携。
 - 2026年9月(26期活動期間中)までに、シンポジウムの企画を検討する。
 - 少子高齢化社会におけるインフラレジリエンス・コミュニティレジリエンスのありかたや社会的包摂、そうした中でのインフラの貢献についての議論を含める。
- 委員コメント
 - 勝見委員：(自身が環境省の検討会で関わる)災害廃棄物処理の問題について、復興にもかかる話なので、災害廃棄物処理のみとしてではなく全体で見る必要がある。
 - 中村委員：アクセシビリティの担保が重要だが、単純にその名前(緊急輸送道路)をつけるだけでは、機能するために多重の要素が必要だという点が見落とされやすいので、この点を主張したい。
 - 大西委員：能登の話で気になっているのは、明らかに復旧のスピードが遅く、どんどん人口流出している状況。アクセシビリティの問題がかなり効いているように思うので、そのあたりをフォローできるとよい。
- 今後の予定
 - 分科会を6月に開催した後、秋に2回ほど行いたい(現在、日程調整中)。シンポジウムの準備や報告書の構成・分担がしやすくなる。
 - 話題提供も受けたい：内閣府、勝美委員、中村委員ほか。ぜひ、ご予定いただきたい。

(4) その他

- 特になし

次回の分科会開催日程：4月15日(火)午後@東京・日本学術会議で調整中(事務局からの連絡待ち)。